

専門学校における iBut システムを利用した 情報モラル教育の実施報告

We reported the information moral education using iBut system

ーインターネット社会に向けてー
- Towards Internet Society -

木崎 悟
Satoru Kizaki

日本工学院八王子専門学校
Nippon Engineering College of Hachioji

＜あらまし＞ iBut(Internet Basic User Test)とは、一般社団法人全国専門学校教育協会が運営するインターネット社会で生きるための適切な判断力と行動力を身につけるため、実施している資格試験である。企業におけるインターネット利用率100%という時代において利用する側の正しい知識とモラルが必要となる。個人情報漏洩、著作権侵害、ネット上の不適切投稿などトラブルを避けるため、社会で適切な判断と行動ができる人材を育成している。

＜キーワード＞ 情報モラル教育 インターネット基礎 インターネット社会 資格試験
人材育成

1. はじめに

iBut(Internet Basic User Test)とは、一般社団法人全国専門学校教育協会が専門学校生のインターネット利用における適切な判断と行動ができる（情報モラルを順守できる）ように2016年度より実施している資格試験である。日本工学院八王子専門学校（以下、本校と記す）では、主に入学初年度の学生を対象として毎年、実施されている。本校に関しては、IT系のすべての学生が受験している。

また、問題作問に関しては、文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」の一部として、当協会が主催し、各専門学校の代表者（iBut 問題作成委員）が作成している。筆者（木崎）に関しても2018年度、2019年度と問題作成委員を務めている。実施については各専門学校の担当者が主導している。

2. iBut 試験の概要

第2章では、iBut について概要を説明する。表1は、iBut 試験の概要である。表2については、出題範囲についてまとめる。

表1 iBut 試験の概要

試験方式	CBT 方式
試験形式	四肢択一式
試験時間	60 分
出題数	50 問
受験手数料	1,700 円 (学校・団体受験料価格)
合格基準	100 点満点のうち、70 点以上で合格
グレード	100 点の合格*： ダイヤモンド 90～99 点の合格： ゴールド 80～89 点の合格： シルバー 70～79 点の合格： ブロンズ *優秀合格者として一般社団法人全国専門学校情報教育協会ホームページで表彰する。

表 2 出題範囲

	テーマ	割合
1	インターネットの基礎	4.0%
2	インターネットでの被害	28.0%
3	インターネット関連の法規	20.0%
4	インターネット利用者のモラル	28.0%
5	インターネットのしくみ	4.0%
6	コンピュータウイルス	4.0%
7	インターネットセキュリティ	4.0%
8	最新情報	8.0%

2. 1. 試験の形式

iBut は CBT 方式の資格試験である。CBT 方式とは、Computer Based Testing の略で、コンピュータを利用して実施する試験方式のことである。受験者はコンピュータに表示された試験問題に対して、マウスやキーボードを使い解答する。

なお、スマートフォンやタブレットでも受験は可能であるが、本校では不正防止の観点などからノートパソコンを使って、試験監督が巡回する一斉試験を実施している。

また、試験終了後すぐに受験者が合否結果、採点結果、能力分析チャートを確認することができる（第 4 章参照）。

2. 2. 出題例

試験時間の 60 分以内に 50 問出題するが、四肢択一式である。出題例として、インターネットの被害から 1 題取り上げる。

Q. 架空請求メールの対処の仕方として、正しいものはどれか。

- | |
|---|
| <p>A. メールが来たことに対し、送信者にクレームをつける。</p> <p>B. 電話によりそのような事実がないことをメール送信者に連絡する。</p> <p>C. 何も行動を起こさず無視する。</p> <p>D. 請求のとおり、お金を振り込む。</p> |
|---|

この場合は C を選択するのが正解である。

2. 3. 出題問題の傾向

試験問題は、インターネットに関する全般

について取り扱っているが「インターネットでの被害」と、「インターネット利用者のモラル」が中心に出題されていることがわかる。

また、インターネット社会が日々新しい情報が生まれ、目まぐるしく変化していることから新しい知識に更新していく必要がある。そのため、最新情報を問題に盛り込んでいる。インターネット社会において、自身で「行動できる」「判断できる」人材を目指して試験対策を行っている。

2. 4. 実施状況

iBut の実施状況としては、延べ 7274 名が受験している（以下、一般社団法人全国専門学校教育協会問題作成委員会資料より抜粋）。

受験している分野については、本校の場合は IT 系学科（IT スペシャリスト科、情報処理科、パソコン・ネットワーク科の 3 学科）を対象としているが、全体だと情報系学科が 59.2% と最も多く、商業実務系学科 20.9%，デザイン系学科 5.1%，その他、文化・教養系学科、コンテンツ系学科、工業系学科、医療・衛生・教育・福祉系学科などからも人数は少ないが受験者がいる状況である。

2019 年度の実施状況によると、受験者 1181 名中、合格者は 1085 名（合格率 91.9%）となっており、他の資格試験より合格率は非常に高い傾向にある。

3. iBut 実施の背景

本校においてもインターネット上のトラブルが度々あり、例えば『A くんが悪口を B くんが SNS 上に投稿したことが、C くんから A くんへ伝えられてしまい喧嘩になった。』など問題になるケースがある。SNS の利用については記録が残るため、SNS 上で発言した内容を完全に消すことは難しい。そのような事態にならないためにも、定期的に SNS やメールなどの利用についての注意喚起を学生に周知している。

これから社会人になる学生がこのような状態では、インターネット社会で問題を起こすと大変な事態を招くことを学生のうちからしっかりと理解しておく必要がある。iBut 試験前はインターネットの適切な利用法や情報モ

ラルについて入学時に講義をしてきたが、それらが確実に理解されているかを確認することが困難であった。

しかし、iBut 実施後は理解度を数値化できるため、理解度が低い学生に対しては集中的に指導することが可能となった。さらに資格試験として実施することで学生の理解に対するモチベーションを向上させることができる。

3.1. インターネット社会における問題

総務省のインターネットの利用状況調査(2018)によると、2017 年のインターネット利用率(個人)は 80.9%となった。また、端末別のインターネット利用率は、「スマートフォン」(59.7%)が最も高く、「パソコン」(52.5%)の利用率を上回っている。本校 I T カレッジの学生の場合は、入学時にノートパソコンを貸与しており、パソコンの所持率は 100%であり、I T を学ぶ学生が多いため、スマートフォンの所持率もほぼ 100%である。そのような状況の中でインターネットの利用率は高くなっている。

しかし、2019 年現在のインターネット社会では様々な問題が発生している。本校においてもインターネットを使い授業の情報収集やレポートの作成をするなど、プログラミングのクラウド環境を使うなど活用の方は様々である。一般的なコミュニケーションツールとして、Line や Facebook, Twitter などの SNS やメールなどを利用することも当たり前のことである。大変便利なものであるが、使い方を誤ると簡単に人を傷つけてしまう、もしくは、他人から傷つけられてしまうような事態を招く。このような事態にならないためにも情報モラルを適切に学びインターネット社会で行動しなければならない。

3.2. 他試験との比較

1 年次前期に受験する資格として一般財団法人職業教育・キャリア教育財団が運営する文部科学省後援の情報検定情報活用試験(J 検) 2・3 級がある。この試験はペーパー方式と CBT 方式の 2 種類で受験可能であるが、本校では CBT 方式を採用している。3 級では、情報化に主体的に対応するための基礎的

な知識、クライアント環境のパソコンの操作、利用と役割、機能、および情報の利用、情報モラルに関わる基礎知識が問われる。パソコンの基礎や情報機器の基本操作などインターネットに特化した問題ではないという点で相違があるが、重複した出題範囲もあるため iBut 試験後にこちらの試験に取り組んでいる。なお、2 級に関しては、情報モラルは問われておらず、コンピュータの技術的な出題が多くなる。なお、2・3 級ともに本校では、進級時に必要な資格としている。

こちらの上位の資格と考えているのが国家試験の I T パスポートである。I T パスポートでは、パソコンの操作に関する知識ではなく、情報システム、ネットワーク、データベースなど I T の基礎知識が体系的に出題される。情報セキュリティや情報モラルについても一部出題される。なお、I T パスポートに関しても進級・卒業必須資格として規定している。

3.3. 試験対策

本校の場合は、1 年次前期に「キャリアデザイン」もしくは「HR」という授業科目があるため、柔軟に授業の組立てをしている。また、一般社団法人全国専門学校教育協会では、公式テキストをウェブ上で無料公開している(公式サイト参照)他、講義用資料(プレゼン資料)も受験対象の学校に配布している。

なお、本試験については 2 回実施している。理由としては、適切な知識の定着を目的としているため、1 回目でできなかった項目を復習して、2 回目に理解を深めた上で受験している。

・本校に iBut 試験対策の実践例

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① iBut 講習プレゼン資料+iBut テキスト (おおよそ 90 分×2 コマ分)② iBut 問題演習 (60 分×4) 4 コマ分を解説③ iBut 本試験実施 (1 回目)④ iBut 本試験の振り返り⑤ iBut 本試験実施 (2 回目)⑥ iBut 本試験の振り返りと不合格者への補講 |
|--|

4. 実施結果

第4章では、iButの実施結果について述べる。実施後はその場で採点され結果がパソコン上に表示される。図1はレーダーチャート形式の成績表のサンプルで平均と比較することができる。正答率分布では、自分がどの位置にいるかを理解できる。また、どの分野が苦手であり、勉強すべきかを的確に把握することができるように詳細な図2のような分野別得点も配布している。

3.3節において、iBut試験を2回受験することを述べたが、成績表を参考に苦手分野を克服して再チャレンジすることでより高いグレードを目指すことができる。

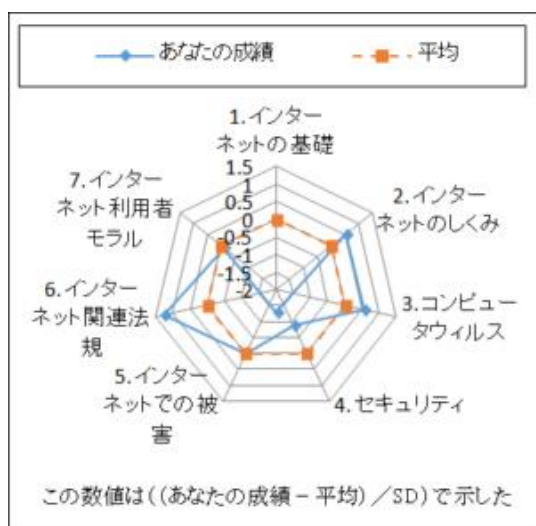


図1 個人別成績表のサンプル(1)

【分野別集計】		
分野	正答率	平均
1. インターネットの基礎	50.00	68.46
2. インターネットのしくみ	80.00	72.08
3. コンピュータウィルス	100.00	78.26
4. セキュリティ	62.50	66.36
5. インターネットの光と影	70.00	76.64
6. インターネット関連法規	40.00	69.80
7. インターネット利用者モラル	100.00	83.02
合計	72.00	74.28

図2 個人別成績表のサンプル(2)

4.1. 年度別実績

iButの実施状況としては、本校においては、2017年度に281名、2018年度に327名、2019年度に421名と増加傾向にある。1年次の必須資格としているため全員受験している。

本校において、試験は各クラス単位(学科単位)で実施している。約40名～60名のクラス構成となっているが、2016年度の筆者(木崎)のクラス(ITスペシャリスト科1年次)で実施した結果を表3に掲載する。

実施結果から、1回目の試験の後に対策をしっかりとった学生は、2回目の試験でグレードが上がった。

しかし、問題がランダムで出題されるため、期間が空いて何も勉強しなかった学生でランクが下がった学生もいた。クラスの中で2回とも不合格だった学生がいたため、補講の対象として課題を実施した。

なお、全問正解者(ダイヤモンド)の学生は一般社団法人全国専門学校教育協会のHPで表彰される。2回目の受験で、ITスペシャリスト科1年のT君がみごと100点満点で合格した。この資格が実施されて以来、初の100点満点合格で優秀合格者として表彰された。(URL: <http://www.ibut.jp/result2-2>)。合格者に対するインタビューは次節で紹介する。

表3 2016年度の実施結果(42名)

	ランク	人数	割合
1回目	ダイヤモンド	0名	0%
	ゴールド	10名	24%
	シルバー	26名	62%
	ブロンズ	5名	12%
	不合格	1名	2%
2回目	ダイヤモンド	1名	2%
	ゴールド	13名	31%
	シルバー	19名	45%
	ブロンズ	7名	17%
	不合格	2名	5%

4.2. 合格者へのインタビュー

2016 年度の試験では、優秀合格者（満点）は、1 名であった。合格者へのインタビューを実施したため掲載する（回答は原文通り）。

Q. 100 点満点で合格した感想は？

とても嬉しかったです。周りのクラスメイトで 100 点が他にいたと思っていましたが、まさか自分だけとは驚きです。

Q. 合格のコツは？

最初の受験では 94 点と惜しくも満点を逃してしまいました。しかし、iBut は試験後にすぐに見直しが可能なため間違えた箇所を復習することができました。2 回目の試験では、間違えた箇所の見直しをしっかりとしていたため、100 点満点で合格することができました。

Q. 次に目指したい資格は？

春の情報処理試験では、情報セキュリティマネジメントを受験する予定です。さらなるインターネットやセキュリティの知識を勉強しています。今後は、ネットワーク系資格の CCENT や LPIC を目指したいと考えています。

4.3. 学習効果

2016 年度の試験では、優秀合格者（満点）は、1 名であった。ゴールド認定の取得者も 7%アップした。

しかし、ブロンズ取得者の上昇と不合格者がさらに 1 名増えたことを考えると 1 回目の全体に対する対策が不十分であったと考える。クラスごとに対策の方法は変わってくるため、1 回目において成績が振るわなかった学生のみ補講を実施して重点的に対策をする必要があったと考える。

図 3 は合格証のサンプルとなり、各グレードの認定によって授与される。1 回目の試験後に認定証がまず配布されるため、認定証という形として結果がでるため、学生は次の試験は、頑張るぞという気持ちになる。



図 3 合格証のサンプル

4.4. 今後の展望

本校では、2016 年度より毎年 iBut 試験を実施している。今後も継続的に実施していくが、各クラスでの実施となっているため、1 回目の試験でグレードが低かった学生に対する補講が担任によって、実施されていたり、各学生に宿題という形式で勉強をさせていたり対応についてばらつきがある状態である。

そのため、試験後の対応を統一化して、グレードの低い学生に対して集合補講にするなど教員の負荷も減らす形で対応していきたいと考えている。

希望としては全員がゴールド以上を取得するまで指導をしていきたいが、前述の 3.2 節で紹介した情報検定情報活用試験（J 検）であったり、IT パスポートや基本情報技術者試験などの対策もあるため、この試験のみに時間が割けない状況である。

他校（専門学校）においては、グレードが高い（ダイヤモンドやゴールド）を多数出している学校もあるため、問題作成委員会等で情報を共有しながら本試験実施における改善を PDCA サイクルにより実施していきたいと考える。

5. まとめ

iBut(Internet Basic User Test)とは、一般社団法人全国専門学校教育協会が運営するインターネット社会で生きるための適切な判断力と行動力を身につけるため、実施している資格試験である。

企業におけるインターネット利用率 100% という時代において利用する側の正しい知識とモラルが必要となる。個人情報漏洩、

著作権侵害，ネット上の不適切投稿などトラブルを避けるため，社会で適切な判断と行動ができる人材を育成している．

社会においてインターネットの利用方法が問題になっている．iBut 試験前はインターネットの適切な利用法や情報モラルについて入学時に講義をしてきたが，それらが確実に理解されているかを確認することが困難であった．

しかし，iBut 実施後は理解度を数値化できるため，理解度が低い学生に対しては集中的に指導することが可能となった．専門学校生は多くの資格を取得して，就職に結び付けることを目的としているため，資格試験として実施することで学生の勉強に対するモチベーションを向上できたと考える．

しかし，実施上の課題もあり，グレードの低い学生に対するサポート体制を整えていく必要が今後はあると考えている．18 歳人口の低下にともない留学生も増えていくことから iBut 試験もこれらの学生に対応させていく必要も出てくるかもしれない．

参考文献

iBut(Internet Basic User Test) .

URL: <https://www.ibut.jp/>

(参照日 2019.10.22)

専修学校による地域産業中核的人材養成事業
(2019) 文部科学省，令和元年度専修学校関連委託事業について．

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1418823.htm (参照日

2019.10.22)

総務省 (2018) 平成 30 年版情報通信白書

インターネットの利用状況，

第 2 部第 2 節 ICT サービスの利用動向

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd252120.html> (参照日 2019.10.22)

情報検定 (J 検) 情報活用試験

URL: <http://jken.sgec.or.jp/index.html>

(参照日 2019.10.22)

I T パスポート試験

URL: <https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/> (参照日 2019.10.22)

一般社団法人全国専門学校情報教育協会令和
元年第 1 回 iBut 試験問題作成委員会配
布資料 (2019.9.3)

「iBut」インターネットベーシックユーザー
テスト テキスト<改訂版>，

[https://www.ibut.jp/wp-](https://www.ibut.jp/wp-content/uploads/InternetBasicUserText_web_new.pdf)

[content/uploads/InternetBasicUserText_web_new.pdf](https://www.ibut.jp/wp-content/uploads/InternetBasicUserText_web_new.pdf) (参照日 2019.10.22)